

# 我が国のヒトES細胞研究が抱えている問題

## News

*Nature* 438, 263 (17 November 2005) |

## Japan's embryo experts beg for faster ethical reviews

David Cyranoski, Tokyo

**Researchers accuse review boards of holding them back.**

### 要旨

日本はマウスやサルのES細胞を使った研究では世界のリーダー(論文の30%以上が日本人研究者による)であるが、ヒトES細胞を用いた研究では1%以下の発表しかない。これは他国と較べて倫理審査をパスするのに必要な時間が長すぎる(平均12.5ヶ月)からである。

他の国では倫理審査は一段階だけで、シンガポール、韓国、豪州、英国では2-3ヶ月、米国では大統領の保守的な政策にもかかわらず数週間で許可がおりている。

注) 別な調査では米国はES細胞に関する米国登録特許の77.8%にあたる802件を取得している。また国際特許の55.2%、欧州特許の51.5%を占め、圧倒的なシェアを持つ。

# 国際幹細胞学会 (International Society for Stem Cell Research) の指針との比較

	日本の指針	ISSCR指針
第一段階のヒトES細胞研究： すでに樹立されたヒトES細胞を使用する研究 (使用研究)	IRB+国の審査	IRBのみ
第二段階のヒトES細胞研究： 余剰胚等を利用してヒトES細胞を新しく樹立する (樹立研究) 核移植を利用したクローン胚の作成と (核移植ES細胞の樹立)	IRB+国の審査	IRB+外部審査
第三段階のヒトES細胞研究： クローン胚の胎内移植	禁止	禁止

使用研究に対する審査が厳しすぎる！

海外に配布を始めると日本で作られたヒトES細胞も外国研究者の方が使いやすい状況になる